

「保健医療科学」
第72巻 第4号 予告

特集：公衆衛生領域のデータベース研究

国内の臨床研究の推進に向けたデータベース研究の動向（仮題）	土井麻理子
レセプトデータを用いた医療介護研究（仮題）	中西康裕
小児慢性特定疾患データに関するデータベース研究（仮題）	盛一亨徳
患者参画型HTLV-1関連脊髄症レジストリの機能と課題（仮題）	山野嘉久
希少がんを含む疾患レジストリの体制整備・運用の実際（仮題）	丹生健一
エコチル調査の運用とその成果—ユニットセンターからの報告—（仮題）	山本緑

編 集 後 記

健康リスクとしては、地震や豪雨、熱波のような自然現象や感染症、喫煙や飲酒、運動や睡眠といった生活習慣など、さまざまなものが知られているが、私たちを取り巻く環境中の健康リスクも忘れてはならない。食事をしたり、水を飲んだり、高速通信で動画を視聴したり、子どもがおもちゃで遊んだり、さらには、本誌を手にとった読者が今この瞬間も絶えず行っている呼吸に至るまで、私たちは日常のあらゆる場面で環境中に偏在するリスクにさらされている。そして、これらのリスクの多くは、地震などと違い目や耳で知覚することが困難であり、感染症のように早い段階で症状（健康影響）が出現することは稀である。また、生活習慣のように個人の努力で回避することも難しく、何とも厄介な側面を持ち合わせている。

本号の特集「身の回りに潜む健康リスクと我が国の安全管理への取組」は、まさにこの身近で厄介な健康リスクに焦点を当て、リスク評価や安全管理の考え方とその手法、関連する法令や制度について概説したものである。扱ったトピックは食品安全から放射線、電磁環境、水道や室内空気、おもちゃに含まれる化学物質と多岐にわたるが、各領域の専門家が、歴史的背景や最新の学術的知見を踏まえて分かりやすく解説している。これまで何となく「厄介に」感じられていた健康リスクの多くが、科学的な手法で測定・評価され、エビデンスと法令・制度に基づいて安全管理されていること、そして、その背景に研究者や公衆衛生関係者の多大なる努力があることを実感していただけるのではないだろうか。もちろん、未解決の課題も多く、科学技術や生活様式の変化などに伴う新たなリスクの出現など留意すべき点もあるが、本特集が、自治体等の現場でのリスクへの対処や住民とのコミュニケーションの一助となることを期待したい。

なお、本特集の各記事の執筆者は、すべて国立保健医療科学院の研究者である。本特集を通じて、国立保健医療科学院の幅広い専門性と研究活動を改めて知っていただく機会となれば幸いである。

（健康危機管理研究部 富尾淳）